

富山県感染症発生動向速報

(2026年第23週分・6月1日～6月7日)

■今週の主な動向

○手足口病の報告数が警報開始基準を超えました。

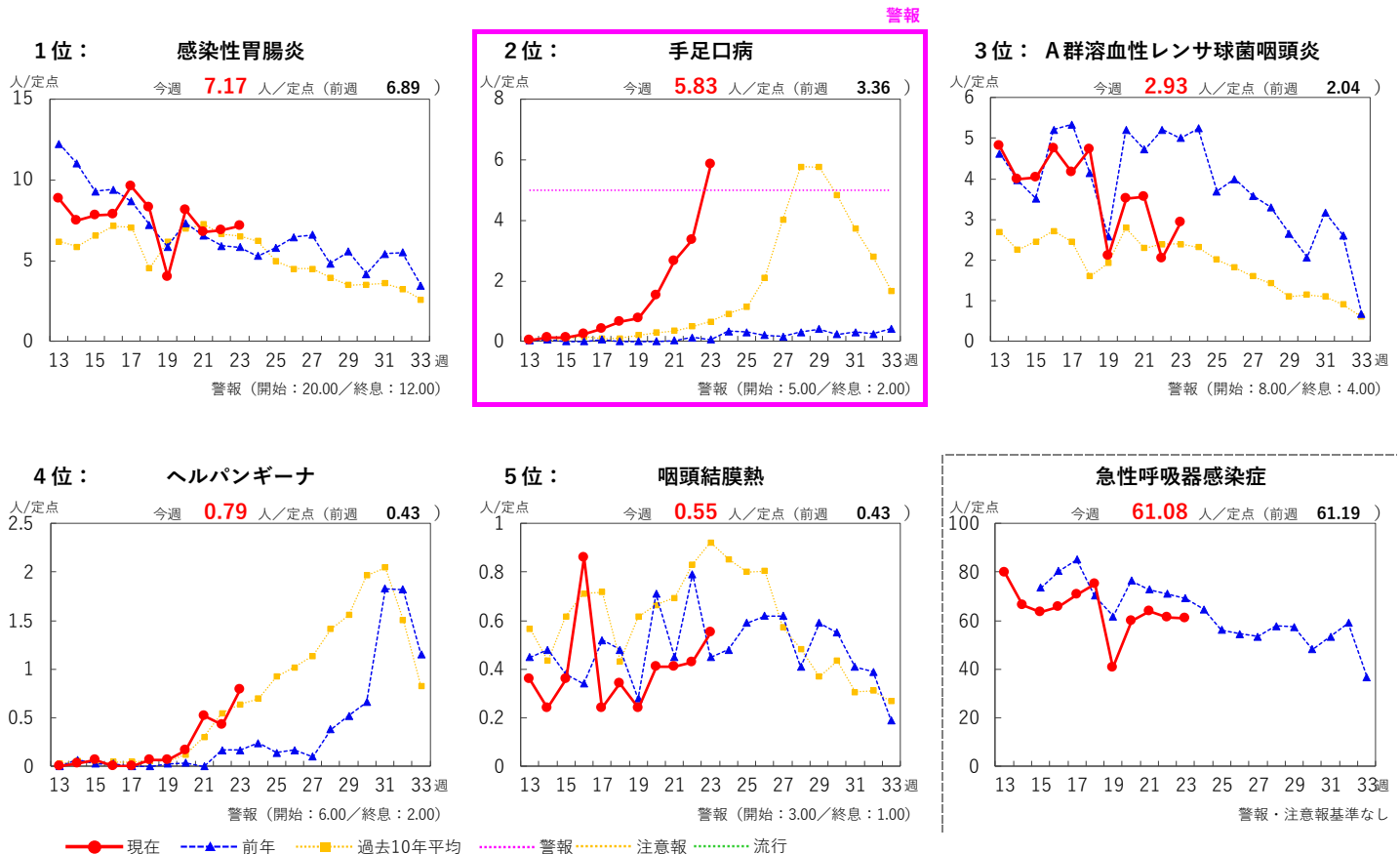
手足口病の報告数は今週 5.83 人/定点となり、警報レベル開始基準値（5.0 人/定点）を超えました（[記者発表](#)）。患者は2歳以下の乳幼児が中心で夏季に増加する傾向があります。特徴的な症状は、手のひらや足の裏、口の中の水疱を伴う発疹です。おむつ交換やトイレの後、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。（[第20週インフォメーション](#)参照）

○腸管出血性大腸菌感染症が今週 6 件（2026 年累計 7 件）報告されました。

腸管出血性大腸菌感染症は、例年夏季に報告数が多い傾向があります。予防には、生肉や加熱が不十分な肉の喫食を避けること、生肉に触れた手や調理器具は洗浄・消毒することが重要です。（今週のインフォメーション参照）

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 23 週・6/1～6/7）



厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

- 二類感染症 結核 1 件（70 歳代、男性）
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 6 件（①10 歳未満、女性、O157、VT 型不明、②10 歳代、女性 ③④共に 40 歳代、男性、⑤40 歳代、女性、②～⑤全て O157、VT2、⑥50 歳代、女性、O 型不明、VT2）
- 四類感染症 レジオネラ症 2 件（①50 歳代、男性、肺炎型 ②70 歳代、男性、肺炎型）
- 五類感染症 梅毒 3 件（①第 22 週診断分：30 歳代、男性、早期頭症梅毒Ⅰ期 ②40 歳代、男性、早期頭症梅毒Ⅱ期 ③40 歳代、女性、無症候）





これからの季節は特に注意！ 腸管出血性大腸菌感染症

《 インフォメーション 》

● 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症は、ベロ毒素（VT）を産生する EHEC を原因とする感染症です。全国では無症状病原体保有者を含む EHEC 感染例は例年 3,000～3,900 例でしたが、昨年は 4,358 例（暫定値）の報告がありました。どの年も夏季

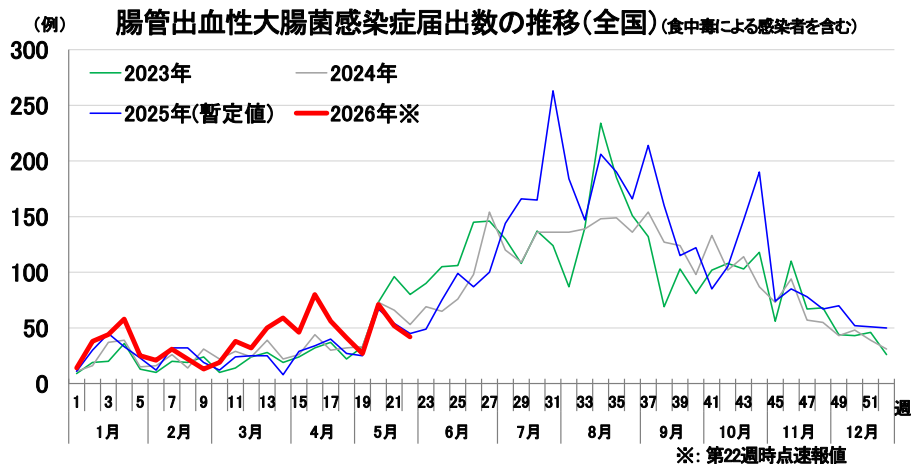
に報告数が多くなっています（図）。富山県では今週（第23週）6例（2026年累計7例）が報告されています（[富山県感染症情報センター／腸管出血性大腸菌感染症](#)）。

EHEC は牛などの反芻（はんすう）動物に保菌されていることが多く、これらの動物の糞便を介し肉類やその他の食品、井戸水などを汚染します。汚染された食品を生そのまま、もしくは加熱不十分な状態で喫食すると、3～5 日後に腹痛、水様性の下痢や血便、さらに一部の患者では嘔吐や発熱などの症状も呈します。溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症など重篤な合併症を併発し、死亡する事例もあります。免疫力が弱く重症化しやすい小児や妊婦、高齢者については特に注意が必要です。喫食による感染は飲食店だけでなく一般家庭でも発生しています。感染予防には、生肉や加熱が不十分な肉の喫食を避けること、調理する際の生肉の取り扱いに注意することが重要です。

また、EHEC は少量の菌数（10～100 個程度）でも感染するとされており（[IASR 2026:47\(5\):75-79](#)）、感染者は無症状であっても患者と同様に菌を排出しています。家庭や保育園・介護施設等においては、感染者の糞便で汚染された手指などを介して起こるヒトからヒトへの二次感染に注意が必要です。

気温・湿度が上昇し細菌が増殖しやすい環境となるこれからの時期は、下記のこと気を付け感染予防に努めましょう。

- ① 調理の際（調理前後、肉等を取り扱った後など）、食事の前、トイレの後、感染者の世話をした後は石けんと流水で手を洗う
- ② 生肉やレバーなどの内臓肉は、内部まで十分に加熱（中心部の温度が 75℃で1分以上）してから食べる
- ③ まな板などの調理器具は、「肉用・魚用」と「野菜用」で使い分ける
- ④ 食材は調理までの間、低温（10℃以下）で保存する



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第23週 2026年6月1日～2026年6月7日）

分類	疾患	今週報告分（第23週）					累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）								
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計		
全数把握	二類感染症	結核		1				1	2	1	10	3	25	41	
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く		1				1	2	1	3	3	17	26	
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		3		1	6	2		3		2	7	
	四類感染症	E型肝炎									1			1	
		レジオネラ症			1		1	2	1	1	4	1	6	13	
	五類感染症	急性脳炎							1					1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	5	9	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		2	4	
侵襲性肺炎球菌感染症								2		4	2	4	12		
水痘（入院例）								1				2	3		
多剤耐性緑膿菌感染症												1	1		
梅毒				1		1	2	3	2	7		9	21		
破傷風												1	1		
百日咳							1				7	8			
急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	250	193	979	231	1,279	2,932	7,449	6,827	25,234	7,172	31,673	78,355		
	インフルエンザ	1	1			2	4	1,442	1,207	3,344	1,431	4,681	12,105		
	COVID-19		1	4	2	4	11	273	142	273	147	516	1,351		
小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症			9	3	3	15	27	11	120	26	97	281		
	咽頭結膜熱	1	1	14			16	28	20	160		65	273		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	4	41	6	20	85	125	172	1,262	208	1,166	2,933		
	感染性胃腸炎	28	17	24	3	136	208	623	482	995	258	2,978	5,336		
	水痘			1		2	3	3	15	35	9	84	146		
	手足口病		9	61	8	91	169		36	249	21	149	455		
	伝染性紅斑			1		1	2	8	3	21	4	12	48		
	突発性発しん		1	5	1	7	14	6	15	60	16	77	174		
	ヘルパンギーナ	1	1	2	3	16	23	15	10	19	3	28	75		
	流行性耳下腺炎	1					1	3		2	1	6	12		
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎			3			3	8	2	8	1		19	
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎			1.50			0.43						1	1
		無菌性髄膜炎							1						1
マイコプラズマ肺炎		1		1			2	9		3	2	4	18		
クラミジア肺炎											2			2	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）										1	1			2	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	101	286		
	COVID-19による入院患者							18	16	7	11	58	110		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。

○感染症発生動向調査報告状況（2026年5月分）

五類感染症 定点把握 月報対象疾患

（上段…報告数、下段…定点医療機関当たりの報告数）

		5月報告分					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
STD定点 (10定点)	性器クラミジア感染症			4		7	11			16		32	48
				1.33		1.75	1.10						
	性器ヘルペスウイルス感染症		1	1		5	7		2	3		22	27
			1.00	0.33		1.25	0.70						
尖圭コンジローマ					2	2			2	2		5	9
					2.00	0.20							
淋菌感染症										1		3	4
基幹定点 (5定点)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1				5	6	3	5	5	4	22	39
		1.00				5.00	1.20						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							1					1

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。